



# 千葉労働動向

国鉄千葉動力車労働組合

〒280 千葉市要町2番8号(動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番  
(公) 千葉 (22) 7207 番

90.11.15 No. 3309

## 再び、侵略の銃をとるな!

### 11・23集会へ全力で

#### 「一回労働学校開催される」

十一月十日、労働千葉  
第五期第一回労働学校が  
二十五名の参加で開催さ  
れた。

第一部として、元中国  
戦犯の塚越正男氏を講師  
に、「天皇制と戦争」と  
いうテーマで講演を受け  
た。時あたかも新天皇の  
「即位の礼」と「大嘗祭」  
の強行と、国連平和協力  
法案(衆院で廃案になる)  
による自衛隊の海外派兵  
策動がうちだされている  
中で、再び戦争をくりか  
えさないという闘いが重  
要になっている。

かえしてはならないとい  
う固い信念を述べた。そ  
して、天皇の輩下になる  
ことで、自分の人生を生  
きてきたこと。また、一  
九五六年六月〜七月に、  
中華人民共和国の特別軍  
事法廷で本来なら極刑に  
されるべき所を、救済さ  
れ帰国できることになっ  
たところから、侵略戦争  
を告発することにふみき  
ったことをあきらかにし  
た。そして全国津々浦々  
をまわりながら侵略戦争  
を告発し、その元凶の天  
皇制を弾劾するために闘  
っている立場をあきらか  
にした。

兵隊は、「上官の命令  
は天皇の命令」とおしえ  
こまれ、一切の命令が天  
皇の下達という形で行わ  
れていく。この意味でも、  
天皇が負うべき責任が大  
きい、と塚越氏は弾劾す  
る。

またこうした虐殺と掠  
奪は、「天皇誕生日」  
皇后誕生日」など、天皇  
関係の「記念日」のたび  
に「作戦」として行われ  
た。そしてその「作戦」  
が終了すると、「天皇バ  
ンザイ」を皇居の方角を  
むいて行うというのであ  
る。

ここに聞き入っていた。  
つづいて第二部として  
全国交流センターの浜田  
市郎氏より「天皇制と労  
働運動」と題して講演を  
受けた。浜田氏はむかし  
の皇軍といまの経済至上  
主義を対比させながら、  
人間を軽視すること、他  
民族への差別と排外主義  
につらぬかれていくこと  
という、共通の問題点を  
指摘した。



その上で、塚越氏が実  
際に侵略した側として体  
験したことを暴露した。  
中国に侵略した日本軍  
は「昭和十六年」から、  
軍を維持するために「現  
地調達」をはじめた。こ  
れは、衣食住の全てを侵  
略した中国からまかなう  
ということを意味し、ほ  
しいままに虐殺と掠奪を  
行うことである。そして、  
「三光政策」  
一、ころす、  
一、うばう、  
一、やいてしまおう、  
のもと、中国の農民や農  
村を一つひとつ「攻撃」  
する。老若男女をとわず、  
非戦闘員の農民を「ゲリ  
ラ」に見たてて、虐殺し

ここに、侵略者であ  
る日帝がつねに天皇の名  
のもとに、三千万といわ  
れる中国・朝鮮をはじめ  
としたアジアの民衆を虐  
殺した姿が鮮明にあばき  
だされている。ところが  
死んだ昭和天皇は戦争責  
任を問われると、「その  
ような言葉のアヤには答  
えかねる」と無責任にも  
死ぬまで居直り続けたの  
だ。そして新天皇もその  
姿勢をかえていない。

塚越氏は、さらに「刺  
突」「首切」「拷問」な  
ど非人間的行為を中国民  
衆に加えてきたことをあ  
きらかにした。「刺突」  
とは銃剣で突撃しながら  
突き刺すこと。「首切」

ここに戦争とりわけ  
侵略戦争のもつ非人間性  
が限りなくあらわされて  
いる。まさに、天皇制とそ  
のイデオロギーなしに、  
このような行為は出来な  
かったのではない。他  
国に侵略すること、この  
なかには一片の正義性も  
ない、と塚越氏は強調し  
て語った。

18日 13時 家族会総会へ